

トホクのシソ栽培方法

発芽適温：15～25℃ 生育適温：20～25℃

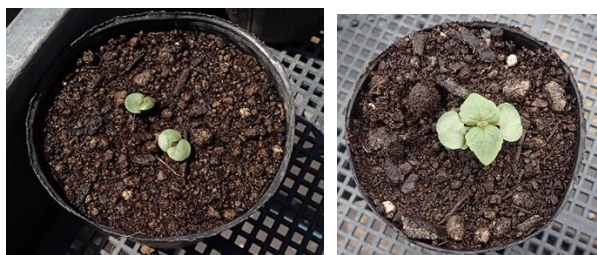
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；少ない

1. 作物特性

シソはシソ科の香辛野菜で、生育に伴ってそれぞれ呼び名があり、子葉は芽シソ、若葉は葉シソ、花穂は穂シソ、未熟果はこき穂(シソの実)と呼ばれ、楽しみの多い作物です。発芽が難しいとよく言われますが、芽さえ出ればその後の栽培は非常に容易で、家庭菜園やプランターで手軽に楽しめます。芳香に富む青シソと、梅干の着色などに用いる赤シソの2つに大きく分けられますが、いずれも分枝性が強く、草丈は1メートル程度にまで生長する繁茂性の高い作物です。

2. タネまき

畑に直接タネをまくこともできますが、ポットにタネをまいて苗を育てる方が失敗は少ないです。育苗用のポットには市販のタネまき用の培土を使うことをお勧めします。また発芽適温が比較的高い作物なので、十分に暖かくなってからタネをまきます。

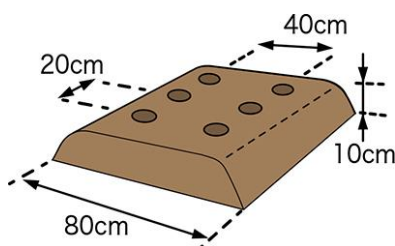


「**注意点**」シソは発芽に光が必要な好光性種子ですのでまき穴は浅くし、土かけはタネが隠れる程度にごく薄くすることがポイントです。また発芽まで乾燥させないように管理し、発芽後順次間引きを行い、本葉4頃までに1本立ちにします。

3. 畑の準備・植えつけ



本葉4～5枚の頃に植えます。株間は20cmを標準とします。密植すると徒長し、着色も良くないのでなるべく株間を広くとりましょう。



4. 栽培管理・収穫

植えた後はしっかりと水をやります。ハスモンヨトウやハダニなど害虫の発生が予想されますので、適切に防除します。



青シソの葉色が薄い場合や、脇芽の伸びが悪くなった場合は追肥を施します。梅雨明け後は葉も硬くなりがちです。株を消耗させないように、株元に敷きわらをして地面の温度を下げ、乾燥も防ぎます。植え付けから約1カ月ほどである程度の大きさに成長します。順次やわらかい葉を摘み取り利用します。



なお青しその場合、葉の裏が赤みがかかることがあります。5～6月の気温の低い時期のストレスの影響です。天候が良くなり成長してくるに従い自然と回復します。

穂シソは花が咲きかけた穂を付け根から摘み取り利用します。こき穂として利用する際は、花が咲き終わってすぐが適期です。花が終わってしばらく経つと硬くなりますから注意が必要です。



栽培例		● まく時期 ■ 収かく期											
地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
冷涼地				●	●	●	■	■	■	■			
中間地				●	●	●	■	■	■	■			
暖地				●	●	●	■	■	■	■			